

山口大学工学部との合同研修会(3/4)

合同研修会終了後に学生の皆さんより提出された、研修会全体を通しての感想・意見の中からいくつかをご紹介します。

今回の山口県産業廃棄物協会との合同研修会を終えて産業廃棄物の業者の方々にはさまざまなリサイクルについて考え、社会の問題に着目して、解決すると同時にそれをビジネスに変えていることがすごいと感じました。

この世界では食料不足によって食べ物を満腹に食べることができない人たちがおり、その問題は日本の問題の一つであることに驚きました。食料不足の一つとしてまだ食べられるのに、捨てられてしまう食べ物のことを「食品ロス」があり。食べ物を捨ててしまうのは、もったいないだけでなく、地球環境にも悪影響が現在、これからの未来に向けて、食品ロスを減らすためのさまざまな取り組みが行われていることをこの研修会で初めて知りました。1年間の食品ロスは約612万トンと東京ドーム約5杯分も捨てられており、世界ではまだ食べられる食料が13億トンも廃棄され、その中で日本は年間612万トンも捨ており、国民1人あたり茶碗1杯分の食料を捨てていることに自分も食べ残すことがよくあり、捨てるが多々あるのでこれからは食べ残しが残らないようなご飯の量にすることで出来るだけ食品ロスを抑えようと感じました。

また日本での食品ロスの原因は、大きく分けて2つあり、一つは、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど小売店での売れ残りや返品、飲食店での食べ残し、売り物にならない規格外品といった事業系食品ロスでもう一つは、家での料理の作り過ぎによる食べ残しや、買ったのに使わずに捨ててしまうこと、料理を作る時の皮のむき過ぎなどの家庭系食品ロスと初めて知りました。このことから産業廃棄物の皆さんは目をつけ、事業者や家庭から出る未利用の食品をスーパーなどに常設の「フードバンクポスト」や、学校や職場・イベント会場などに食材を持ち寄る「フードドライブ」活動等を通じて、集まった食品を福祉施設等の食品支援に活用し、食に困っている方に提供するビジネスをしていたことを知りました。しかし、この事業に利益を出すことが困難であり、むしろ利益が出ないことが多く、事業活動は非常に難しいことがわかりました。そこでこのフードバンクは事業として難しいことから宣伝として活用するなど最終的に利益につながるように創意工夫していることに感動しました。

また2回目の各班の発表においてみんな面白い事業内容を作るなど感じました。特に印象に残ったのがアプリの開発でした。フードロスにおいて食料品の買いすぎによる食品ロスに目をつけ、現在最も普及しているスマートフォンを活用したフードロス対策を思いつくことにすごいと感じました。また受刑者に無償で労働されてプラスチックの仕分けをさせるということも非常に面白いアイデアだと感じました。このような若者の柔軟な発想が今後の社会に貢献していくのだなと私は感じさせられました。

合同研修会は、廃棄物処理や食品ロス、プラスチックに関する環境問題やそれらの処理方法など、様々なことが学べて非常に良かった。

特に印象に残ったことは2つあり、1つ目は、発表で担当したプラスチックによる環境問題である。プラスチックが利用されるようになってから日本では過剰包装が問題とされているにも関わらず生産量や廃棄量が年々増加しており、リサイクル方法や処理方法も未だに環境に良いものではないということは大きな問題であると思う。私は大学で知識を得て、少しでもプラスチックに関する問題を改善することに貢献していきたいと感じた。2つ目は、食品ロスである。まず、日本だけで毎年東京ドーム5つ分の食品が廃棄されており、国民全員が毎日茶碗1杯の米を捨てているものと同量ということに大きな衝撃を受けた。現在、食べ物を十分に摂ることのできない人が日本にも世界にも大勢いるため、食品ロスを少なくして食材を分け与えていくことのできるような仕組みや制度の普及が必要不可欠であると考え。例えば、今回の発表で他の班が紹介していた、賞味期限が近くなったり過ぎてしまった食材を集めて売るといったビジネスが一般的になっていけば食品ロスの削減に繋がっていくと考える。

また、合同研修会についての改善点としては、テーマをもう少し増やしてもいいのではないかなと思う。今回は9班で3つのテーマだったが、10班で5つのテーマを話し合い、発表をすることで、今より幅広く環境問題に目を向けていくことができるのではないだろうか。最後に、実際に廃棄物処理に関わっている方々との交流は非常に良い学びであり重要な経験だったので、再び廃棄物処理協会の方々と接することができるような機会がある時は積極的に参加していきたい。

協会の方の「食品廃棄物」に関する講演では、世界や日本の食糧に関する課題や山口県内で取り組まれている活動を知ることができました。しかし、そのような活動によって食品ロスを少し減らすことはできるかもしれませんが、SDGsを達成するほどの効果はもっていないのではないかと感じました。フードバンクなどの食品ロスの取り組みをすべての国民が認知・理解し、活用や実行を行うこと、あるいはそれらの活動以上に食品ロスを大幅に削減する取り組みの考案が必要であると考えます。

グループ討論ではプラスチック製品について考えましたが、さまざまな視点からの課題点があり、また最善の解決方法(ビジネスモデル)が思いつかず大変でした。協会の方の意見も聞くことができ、プラスチック製品の生産側や購入側の立場に立っても考えるべき問題であると気づきました。

この合同研修会を通して、廃棄物に関する新たな考えを知ることができました。